

登録コード	J5932200	開講年度	2026		県内大学開放授業			
授業科目	社会科学特別講義（環境経済学）				担当教員	YANG JIE		
英文授業名	Introduction to Environmental Economics				副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・3時限		対象学年	（23カリ対象科目）経：2年
講義室	経法401演習室			授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】			
	経法23加（2026改）・応用経済，経法23加・応用経済							
	専門知識を応用・実践する力として，計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価，実験経済学による社会制度の機能の検証，医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘，法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証，などのスキルを習得し，経済の実情に即した政策提言，あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。				環境問題に対する経済学的な分析手法を習得することで，現実の環境問題の発生原因を理解し，論理的に説明できるようになること			
	【2020年度以降カリ対象】専門領域での基礎知識として，経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして，経済理論の応用分野として，金融，公共政策，法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで，専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。				各種政策手段の特徴を理解し，環境政策の成功や失敗の理由を自分の言葉や図表で説明できるようになること			
(2)授業で学べる「テーマ」	環境共生							
(3)全学横断特別教育プログラム	環境マインド実践人材養成コース							
(4)授業の概要	多くの環境問題は、私たちの日常生活や企業活動と密接に結びついている。本講義では、環境問題がなぜ生じるのかを経済学の枠組みから理解し、解決に向けた政策手段の設計と評価の考え方を学ぶ。前半では、市場の失敗（外部性、公共財、共有資源など）に関する基本概念を踏まえ、気候変動や廃棄物問題を中心に、直接規制、環境税や排出量取引といった環境政策の事例を比較し、その効果と課題を検討する。後半では、環境の価値と評価手法を扱い、費用便益分析などを通じて政策評価への応用を考察する。さらに、途上国の環境問題や持続可能な発展などのトピックも取り上げ、持続可能性に関する様々な経済指標について検討する。							
(5)授業計画	第1回 イントロダクション：環境問題と経済学 第2回 ミクロ経済学の復習：市場メカニズムと余剰分析 第3回 外部性と市場の失敗 第4回 公共財と共有資源 第5回 環境政策Ⅰ：直接規制とコースの定理 第6回 環境政策Ⅱ：経済的手段 第7回 環境政策手段の選択と応用 第8回 気候変動の経済学Ⅰ：国際協調への挑戦 第9回 気候変動の経済学Ⅱ：エネルギーと環境 第10回 家計の廃棄物政策とリサイクル 第11回 環境評価Ⅰ：環境の価値 第12回 環境評価Ⅱ：顕示選好法と応用例 第13回 環境評価Ⅲ：表明選考法と応用例 第14回 途上国の環境問題と持続可能な発展 第15回 総括：政策設計・評価の統合と今後の論点 授業の進行状況に応じて授業内容や実施日を変更することがある							
(6)成績評価の方法	・ 授業内での複数回課題や小テスト(30%)、中間テスト(30%)、最終課題または期末テスト(40%)で評価する ・ 授業内課題や小テストは計3回（第4回、第10回、第13回）実施し、中間テストは第7回に実施する予定である 授業の進行状況に応じて課題の実施回数や時期を変更することがある							
(7)成績評価の基準	下記の基準によって成績を評価する ・ 90点以上：秀（卓越している） ・ 80点以上90点未満：優（かなり上にある） ・ 70点以上80点未満：良（やや上にある） ・ 60点以上70点未満：可（その水準にある） ・ 60点未満：不可							
(8)事前事後学習の内容	・ 講義資料の予習と復習、また参考書を講義の前後に読むことが望ましい ・ 身近な環境問題への取り組みを調べ、講義の内容で説明してみよう この授業は60時間以上の時間外学習が必要となる							
(9)履修上の注意	・ 入門ミクロ経済学の内容を十分に理解していること ・ ミクロ経済学や公共経済学と関連する内容が含まれるので、関連科目を履修済であるか、あるいはこの講義と併せて履修することが望ましい							

(10)質問,相談への対応	オフィスアワーで個別相談可 ・ 事前にメール (yangjie@shinshu-u.ac.jp) でアポをお取りください
【教科書】	指定教科書はなし ・ 配布資料を用いた講義形式 ・ 課題やレポートの提出方法や期限は授業内で指示する ・ 提出物については講義中や別資料にてフィードバックをおこなう
【参考書】	参考書として以下の文献をあげる。個別の参考書や資料は講義中に適宜紹介する ・ 栗山浩一、馬奈木俊介著 (2020)「環境経済学をつかむ(第4版)」有斐閣 ・ ニック・ハンレー、ジェイソン・ショグレン、ベン・ホワイ特著、田中勝也翻訳 (2021)「環境経済学入門」昭和堂 ・ 大沼あゆみ、柘植隆宏著 (2021)「環境経済学の第一歩」有斐閣